

カキ‘輝太郎’の雌花に対するコメツキムシ類の加害が果実品質に及ぼす影響

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

河原試験地では、開花期に‘輝太郎’の雌花に体長15mm程度のコメツキムシ類成虫（以下コメツキ）が入り込んでいるのが散見されており、そのようなほ場の‘輝太郎’落弁期後の果実は果頂部を中心に汚れ（傷）ができていた様子が観察された。

そこで、落弁期の‘輝太郎’果実の汚れが開花期のコメツキによるものかどうか確認するため、コメツキの接種試験を行った。

(2) 情報・成果の要約

- 1) カキ‘輝太郎’の開花期において、コメツキを接種することにより、果頂部の汚れが再現された。
- 2) 落弁期に観察された汚れは、収穫果実においても同様であった。
- 3) ‘輝太郎’開花期におけるコメツキの寄生は、果実品質低下の要因になると推察された。

2 試験成果の概要

- (1) 人工受粉後、接種区（開花直後の花にコメツキを3頭接種し網状の袋を被袋）、遮断区（網状の袋を被袋し外部からのコメツキを遮断）、対照区（無処理）を設置し、落弁期及び収穫期に果頂部を観察し、その汚れ程度を記録した。
- (2) 接種区では、コメツキが花に潜り込んでいる様子が観察された（写真1）。また、対照区においても同様の様子が観察された。
- (3) 落弁期、収穫期とも接種区と無処理区では果頂部を中心に果実の汚れが確認され、遮断区では同様の汚れは認められなかった（写真2～7）。
- (4) 本試験において、コメツキ接種により落弁期にみられた果頂部の汚れは、収穫期にそのまま残ることが観察され、果実品質低下の要因になると考えられた。
- (5) これらのことから、これまでに見られていた果頂部を中心とした汚れはコメツキによるものと推察された。

第1表 コメツキムシ類接種試験(2017)

処理区	処理方法	調査果数 (6/12)	汚れ程度(6/12) ^z				調査果数 (10/6)	汚れ程度(10/6)			
			0	1	2	3		0	1	2	3
接種区	袋内にコメツキムシ3頭放虫	26	3	1	7	15	23	3	1	5	14
遮断区	被袋し虫の侵入を遮断	29	29	0	0	0	26	26	0	0	0
対照区	無処理	30	11	12	6	1	25	13	4	5	3

z: 汚れ程度0: 無、1: 小(青秀程度)、2: 中(優程度)、3: 大(規格外程度)



写真1 コメツキ接種試験の状況



写真2 コメツキ接種区（落弁期）



写真3 遮断区（落弁期）



写真4 コメツキ接種区（収穫期）



写真5 遮断区（収穫期）



写真6 コメツキ接種区



写真7 遮断区（収穫期）

3 利用上の留意点

- (1) 平成30年12月時点でコメツキに登録された農薬はなく、また、開花期間中で殺虫剤による防除は難しいため、コメツキが見られるほ場では、摘蕾時に多めに花蕾を残すか落弁期以降速やかに汚れのない果実を残すよう摘果する。

今後、生産現場におけるコメツキの発生程度を確認する必要がある。

4 試験担当者

（河原試験地 試験地長 藤田俊二
環境研究室 主任研究員 中田 健*
* 環境研究室 室長